

IV-374 「美しさや個性的な景観づくり」のための道路景観整備メニューシートの作成

パシフィックコンサルタンツ(株) 正会員 門司 隆明

同 上 長沼 良子

同 上 新井 岳

1. 背景と目的

従来の道路計画設計は、道路構造令による幾何構造に基づき、歩道幅員の確保などを満足させ、公共施設としての恒久性をもたせるということに主眼が置かれてきた。そのため道路に求められる定量的な機能面と同じレベルで、景観に配慮した道路計画設計が行われてこなかった。ところが近年では、質的な整備が社会的なニーズになってきており、建設省では「21世紀に向けて新たな道路構造のあり方」についての答申、「道路構造令」の全面改正に向けての道路審議会の最終答申など審議、検討が継続するなど、道路計画設計においても配慮すべき要因となってきた（図-1）。

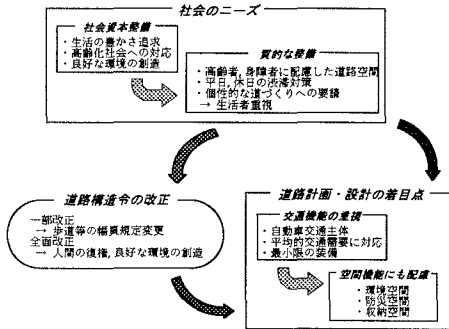


図-1 本研究の背景

本研究では、これまでの道路景観整備における課題を整理し、計画設計者の立場から「景観を考慮した道路整備メニューシート」を構築することで、機能面と同じように当たり前の感覚で景観にも配慮できるような道路計画設計手法を提案することを目的としている。

2. 道路景観整備の課題

従来の道路整備水準において景観整備のような演出機能は、基本機能を踏まえた上での利便性、快適性といったサービス機能の次に位置づけられていたと考えられる。しかし道路整備が社会的なニーズに応えるものを目指し、道路におけるサービス機能の充実も基本機能と同じように要求されてくる今後は、演出機能の重要度が増し、他の機能と同様に考慮されなければならない（図-2）。

こういった道路整備水準の変化の中で、これまでの「美しさや個性的な」道路景観整備は、道路を装飾したり見苦しいものを隠すことだと考えられがちであった。しかしこれからの道路景観整備には、いかに美しく周辺と調和し、個性を演出するかを検討する必要がある。また、経年的変化に対する考慮（メンテナンス、時間を重ねるごとに趣が出るような整備等）も重要であり、基本機能の充実に図る上でサービス機能の充実も図ることが求められている（図-3）。

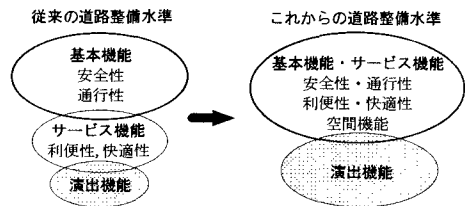


図-2 道路整備水準の考え方

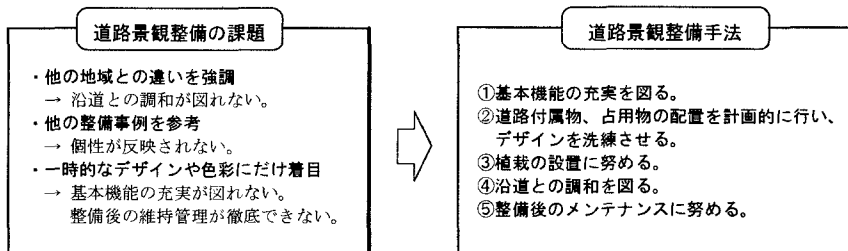


図-3 道路景観整備の課題と整備手法

3. 景観を考慮した道路整備メニューシートの構築

メニューシートは、景観を考慮した道路計画設計の可能性を判断する時に活用することを前提とし、①～⑤の景観整備手法に対して（行方向）、どのような整備効果（基本機能～演出機能）が得られるか（列方向）、または求められる整備効果、景観操作方針に対し（列方向）、どのような景観整備手法を施せばよいか（行方向）を表すものとした（図-4）。

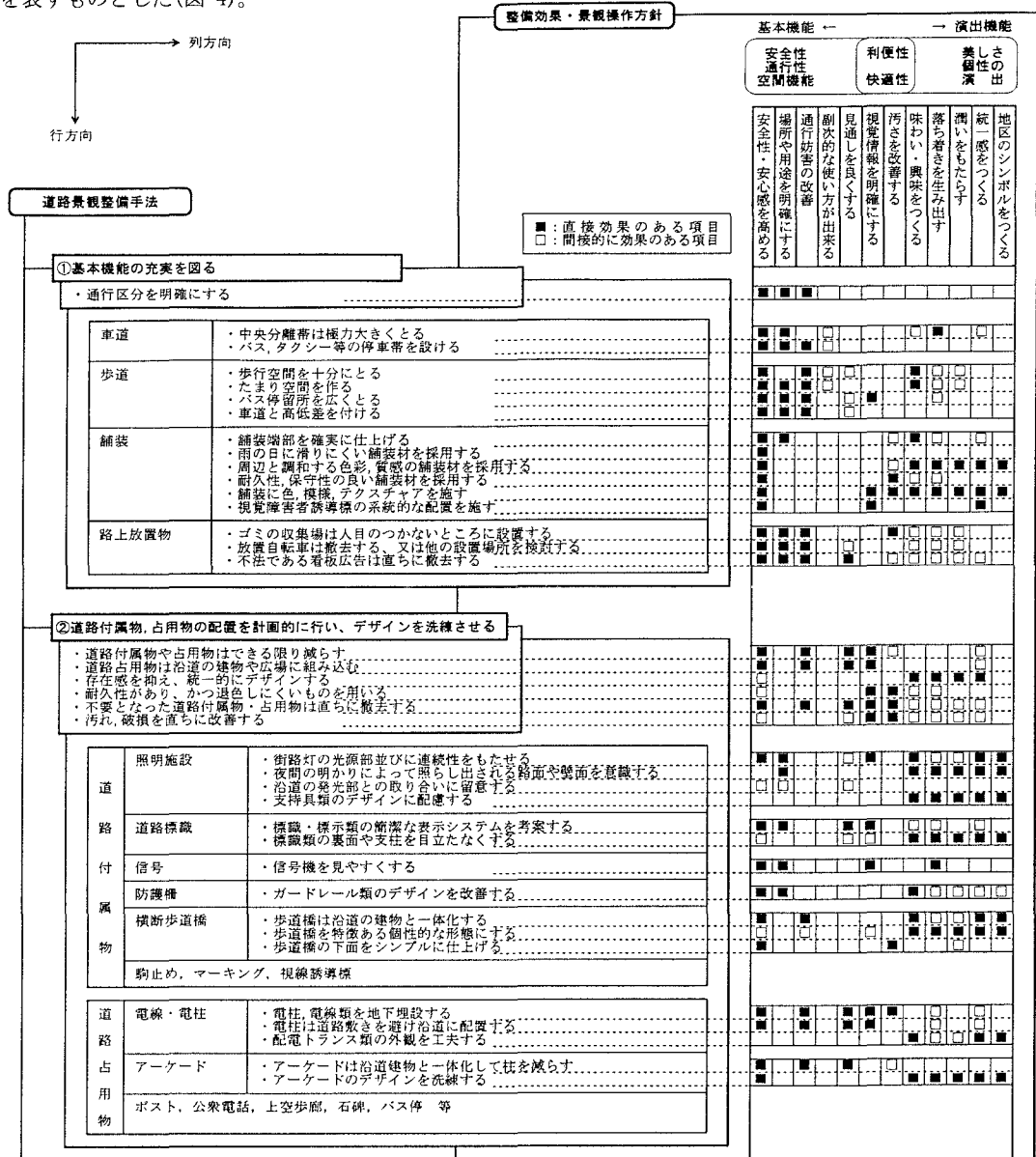


図-4 景観を考慮した道路整備メニューシート（一部抜粋）

4. まとめ

本研究では、景観整備手法と整備効果に主眼を置き、一般の道路利用者、道路計画設計実務担当者からのヒアリングを中心にメニューシートの構築を行った。今後の課題として、実業務への応用、整備効果、景観操作方針の各項目の評価基準の明確化があげられる。